

2017年 ピースボート地球大学 特別プログラム 「平和で包摂的な社会をつくる」

2017年8月10日(木)～8月28日(月) [19日間]
東京～厦門(中国)～シンガポール～ヤンゴン(ミャンマー [ビルマ])

PEACE BOAT

ピースボート地球大学とは

ピースボート地球大学は「地球一周の船旅」を活用した短期集中型の英語でのグローバル人材育成プログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上ゼミを組み合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養い、理解を深めていきます。専門知識を武器に、現場の声を確実に拾いながら、思いやり(empathy)と情熱(passion)をもって地球規模の課題を解決に導ける人材、先の見えない社会を牽引していく未来のリーダーのためのプログラムです。

※「ピースボート地球大学」は、NGO ピースボートがコーディネートする教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。



プログラム行程

参加者は8月10日(木)に東京にて集合、現地でエクスポージャーを行った後に横浜から第95回ピースボート地球一周の船旅を実施中のオーシャンドリーム号に乗船しました。途中厦門とシンガポールに寄港しヤンゴンにて下船。1泊2日のエクスポージャーを行い8月28日(月)にプログラムを終え、解散しました。

参加者

11ヶ国36名

韓国 16名 日本 10名 インド 2名
台湾 2名 中国 1名 香港 1名
フィリピン 1名 ブルネイ・ダルサラーム 2名
カンボジア 1名 ミャンマー [ビルマ] 1名
シンガポール 1名

ピースボートがアジアにもつ提携大学(下記参照)およびNGOネットワークから集まりました。

- ・**東京外国語大学** 「『コンフリクト耐性』を育てる地域研究教育システムの開発と国際職業人教育機能の高度化」プロジェクトの一環として(学内選抜有2単位)
- ・**慶熙大学校** ヒュマニタスカレッジの提供する教養プログラムの一環として(学内選抜有)



ナビゲーター

- ・**忍足謙朗** [国連食糧計画(WFP)元アジア地域局長]
30年以上にわたり国連に勤務し、人道支援、開発支援の現場で活躍。2009年から2014年、WFPアジア地域局長を務め、アジア14か国の支援の総責任者となる。
- ・**キン・オーンマー** [民主化・人権運動家]
ミャンマー(ビルマ)出身。1988年の民主化運動に学生として参加。以降、ミャンマー民主化運動に精力的に携わる。2016年からミャンマーの政策研究・人権団体プログレッシブ・ボイス諮問委員会議長を務める。
- ・**リー・クワン・ブン** [シンガポール国連協会副会長]
15年ほど金融の分野で投資関連の事業に関わったのちシンガポール国連協会に関わるようになる。2008年から2015年にかけては国際連合協会世界連盟(ニューヨーク)の理事会メンバーも務めた。

ゲスト講師

加藤千洋(同志社大学教授、元朝日新聞編集委員)

コーディネーター(ピースボート)

川崎哲、寺地亜美、畠山澄子

「地球大学特別プログラム」の特徴 ～ アジアから世界を変える

多様性を知る

地球大学にはアジア太平洋各国から参加者が集まります。バックグラウンドや専門の違う参加者と経験や意見を交わすことで、物事にはいくつもの見方があることを知り、様々な視点を比較・統合していく力を養います。

英語を使う

語学は学びのツールです。英語「を」学ぶのではなく英語「で」学ぶのが地球大学。ディスカッションやプレゼンテーションも行います。各地のアクセントに触れながら、グローバルコミュニケーションの力を鍛えます。

現地に学ぶ(エクスポージャー)

エクスポージャー(現地実習)を通して平和や人権、環境問題を検証し、現地に暮らす人々とともに解決策を考えます。「かわいそう…」から「私が変わる!」に変わる。他人事から自分事へ。それが平和な社会を築く当事者への第一歩です。

プログラム内容

経済成長の間に目を向ける [東京エキスポージャー (2日間) + 洋上ゼミ3コマ]



東京では、渋谷、新宿、山谷、池袋をまわり、日雇い労働やホームレスの人が置かれる状況や行政の対応について、またその歴史的背景について、当事者や支援者に話を聞きました。洋上ゼミではロールプレイの手法を用いて各アクターの視点に立ってエキスポージャーを振り返った他、政策提言につながる議論も行いました。インド、韓国、中国の学生による各国の「経済成長の闇」についてのプレゼンテーションを通して「比較する視点」を養った他、忍足氏のレクチャーでは「飢饉」や「食糧安全保障」をテーマにグローバルな視点から経済成長の代償を捉えました。

持続可能性を实践する：自分たちでつくる未来 [厦門エキスポージャー(1日)+洋上ゼミ3コマ]



厦門ではマングローブ林の保全に携わる現地の団体とともに植林活動に取り組みました。地元の小学生を対象に森林破壊と空気汚染をテーマとした環境教育の授業も行いました。環境を守るということを自ら体験し、また次世代に伝えていくことの大切さと難しさを実感しました。洋上ゼミではこれらの学びをもとに「持続可能性」の定義を考え直し、国連が掲げる持続可能な開発目標 (SDGs) を各国でどのように実践していけるかをリー氏のレクチャーをもとに話し合いました。加藤千洋氏のゲスト講演では中国における経済成長と環境破壊の負の連鎖について考えました。

多様性で社会を強くする [洋上ゼミ4コマ+シンガポールエキスポージャー(1日)]



社会の多様性をテーマに、シンガポールでは移民労働者の置かれる環境について現地の支援団体と考えました。学生は移民労働者の多く集まるリトル・インド地区をまわり、移民労働者が身を置く生活空間を知りました。洋上ゼミではシンガポールの多民族性について学生のプレゼンテーションがあった他、アジア地域全体の移民問題も扱いました。社会の多様性をジェンダーという視点から捉えるゼミも行いました。性差による機会の不均等や暴力、社会運動や政治における女性の役割や可能性について学生やオーナー氏のプレゼンテーションをもとに議論しました。

紛争の連鎖を断ち切り「つながり」を大切にす社会へ [洋上ゼミ5コマ+ヤンゴンエキスポージャー(2日間)]



ヤンゴンでは複数のユース団体と交流をし、ミャンマーの抱える民主化や多民族共生の問題に対する若者の取り組みについて聞きました。社会における若者の役割についての意見交換も行いました。正義と和解の問題に取り組む団体も訪問し、紛争の問題が貧困や開発の問題と切り離せないという事実を学びました。洋上では、ミャンマーにおける軍事政権や民主化の歴史、少数民族の抑圧をめぐる課題などについて、オーナー氏のレクチャーをもとにディスカッションを重ね、このような国内事情から発生する難民や食糧危機の問題について忍足氏と考えました。

ONBOARD ACTION 船内アクションチャレンジ [洋上ゼミ12コマ]



学んで実践して、実践して学ぶ。実践と学びを両輪とするのが地球大学です。そのために多国籍の約1000名がともに旅をする船という場を活かします。プログラム期間中、学生には船内の人に向けて自分たちの学びを発表する機会が多数設けられました。プログラムの最後には、船内の人たちと「環境」「開発」「社会の結束」の3つのテーマを考えるプロジェクトを企画・立案・実践するという課題も与えられました。各グループは意見の対立なども経験しながら、アンケート調査やワークショップ、募金活動や写真展など、様々な取り組みを実現させました。

2018年度の開催予定

ピースボートでは2018年9月に3週間程度の地球大学特別プログラムの実施を予定しています。大学提携などに関するご相談やお問い合わせは右記連絡先までお寄せください。

問い合わせ先

ピースボート事務局
Tel: 03-3363-7561 Fax: 03-3363-7562
univ@peaceboat.gr.jp
<http://peaceboat.org/projects/univ>